

高圧ガス事故等調査報告書（喪失・盗難）記載要領

1. 報告年月日及び報告作成者

該当欄に記載する。報告書作成者の欄には、都道府県（指定都市）名、所属部署名、氏名及び連絡先を記載する。

2. 整理番号

事故発生年（暦年）、都道府県名及び都道府県（ただし、指定都市の場合は指定都市名及び指定都市）ごとの事故発生番号を記載する。

例えば2018年中に北海道で一番目に発生した盗難の事故は「2018－北海道－盗難－1」と記載し、同一事故の報告はすべて同一の整理番号を付す。なお、喪失と盗難とは区別して整理番号を付す。

3. 報告段階

事故報告は省令で定められている期限内に行い、事故の原因、被害状況等に不確定部分がある場合は中間報告（第 次）としその時点で分かる範囲で報告する。確定次第確報として報告する。

4. 事故の呼称

下記の例を参照にガス名、災害現象のすべてを記載する。

製造事業所又は冷凍事業所：「〇〇株式会社〇〇工場〇〇ガス容器盗難事故」

消費先等：「〇〇ガス容器の盗難事故」

5. 法令区分

高圧法上の適用規則のうち該当するもの、認定事業所の有無及び発災施設が認定施設又は非認定施設かの区分を○で囲む。なお、適用規則の略称は以下のとおり。

一般則：一般高圧ガス保安規則

LP則：液化石油ガス保安規則

冷凍則：冷凍保安規則

コンビ則：コンビナート等保安規則

6. 場所

該当項目を○で囲む。

7. 規制対象別

該当項目を○で囲む。

8. 事故発生区分

該当項目を○で囲む。

9. 事故発生原因

該当項目を○で囲む。

10. ガスの種類及び名称

当該事故に係る高圧ガスについて該当項目を○で囲み、又は「6. その他」にあつては（ ）内にガス名を記載する。なお、その他には（ ）内に「（別添2）高圧ガス事故等調査報告書（災害）記載要領」の18. の分類例を参考にしてガス名を記載する。

11. 設備概要

該当項目を○で囲む。その他の場合は（ ）内に具体的に記載する。

12. ガスの名称、容器の容量及び本数

「容器の容量及び容器本数」欄は、ガス別に容量（kg 又は m³）及び容器本数を記載する。

13. 容器の記号番号

容器の記号番号が判明している場合には記載する。

14. 施錠の有無

該当項目を○で囲む。

15. 容器交換の頻度

該当項目を○で囲み、交換頻度が判明している場合には記載する。

16. 官公庁で講じた措置及び対策

措置及び対策を箇条書で記載する。なお、措置及び対策を行った文書を必要に応じて別添に付ける。

17. 事業所側で講じた措置及び対策

措置及び対策を箇条書で記載する。なお、措置及び対策を行った文書を必要に応じて別添に付ける。

18. 法令違反の有無

事故当事者による法令違反（事故原因に関係のないものを含む。）及び事故当事者の関連事業者による法令違反（事故原因に係るものに限る。）について調査検討した結果を記載する（高圧ガス保安法以外の他法令の違反についても含む。）。直近1年以内に事故当事者において高圧ガス保安法における法令違反がある場合は、その旨を記載する。

19. 官公庁で出した通知文書、新聞等の写し、図面、写真、所見等

所見については、当該事故発生事業所の危害予防規程、保安教育計画の遵守状況等その他事故に関する問題点等について記載する。

別紙については、必要に応じて事業者からの事故届、新聞等の写し、図面（工程図、機器構造図等）、写真（カラー写真であればより望ましい。）、地図等を添付する。